



現代未聞 追手門
130年の伝統を革新の力に

追手門学院大学 一貫連携教育部



学院志研究室 News Letter

第7号

News Letter of Research Center for the History of Otemon Gakuin



- ① 1965年撮影
- ② 1966年撮影
- ③ 1995年5月18日撮影
- ④ 1998年4月28日撮影
- ⑤ 2015年5月撮影



ただ
航空写真で巡る
安威キャンパス

大学4号館1階のつきあたりに記念資料室という部屋があることを皆さんご存知でしょうか。おそらく学生はもちろん、教職員でも足を踏み入れたことのある人はあまりいらっしゃらないことでしょう。ここには古いものから新しいものまで、学院に関わる多種多様な資料が眠っています。“〇年前の将軍山祭は何をしたっけ？”“あの規程ができたのはいつだったかな？”といった疑問がわいたとき、解決する糸口をみつける縁の下の力持ち的存在です。

そんな記念資料室は大学の組織改正や施設整備の影響による紆余曲折を経て現在に至っています。今回はこれまでの年志では語られることのなかった記念資料室の歴史を紐解いてみたいと思います。

第Ⅰ期

記念資料室は大学創立20周年を記念して1号館の4階に設置されたのが始まりです。庶務課が管轄し、松崎まさ子さんという職員が学生相談室との兼務で、大学の刊行物や出版物などの整理・保管をされていました。

この時期の事務書類が今も記念資料室に残されています。それによれば記念資料室は①史料室的機能、②文書室的機能、③記念事業に関する資料収集機能、④その他の資料収集機能の目的・役割をもって業務の遂行にあたりと位置づけられています。また資料の散逸を防ぐ目的で保管は製本を原則としており、現在の運営にも継承されています。

その後、資料室の拡大や寄贈の受入、他大学との交流など、規模は小さいながらも安定した運用が続きます。その運用を支えたのが元運転手の杉浦義雄さんです。記念資料室の専任職員として6年間お勤めになりました。

1996年度をもって杉浦さんが辞職されてからは、専任職員の配属が確認できません。折りしも事務組織の改正で2000年から庶務課がなくなり、記念資料室の業務は学長事務室へと引き継がれました。

学長事務室は人権委員会の事務機能をあわせもち、担当の沢田容子さんが記念資料室事務とともに人権委員会事務も兼任されていた関係で、現在の記念資料室には多くの人権委員会関係のファイルがあります。

幻の記念資料室
一九六九年七月一日発行の「大学学報」に、同年五月二七日に竣工した研究棟の施設紹介がみられます。そのなかに「追手門学院記念資料室」の名称が。しかしその実態は確認できず、現在の記念資料室とのつながりは不明です。

第Ⅱ期

2001年にはいり学生課の事務室が学生会館2階から別館（旧食堂の地階）へ移動したのに伴い、空いた部屋に記念資料室が入ることになりました。この頃、1号館4階は中高等学校改革検討委員会室との相部屋になっていたため渡りに船でした。学生会館2階へ移設してからは「人権・記念資料室」と称されていたことが当時の施設案内図からわかります。

この移設にあたり、学生会館地下倉庫にあった大学創立20周年記念展示パネル（校友会作成）が記念資料室に移管されました。貴重な写真が貼付された大型パネルで、今年度中にデジタル化保存をする計画です。

2003年に再び庶務課が復活、記念資料室は庶務課の管理に戻りました。

第Ⅲ期

2010年になり、学生会館2階の部屋がクラブコーチ室として使用されることになります。そのため現在の4号館1階へ移ることになりました。しかしそこは文化財資料室としてすでに考古学研究会の資料が収蔵されていました。記念資料室は文化財資料室との相部屋という形を現在もとっています。

庶務課の廃止に伴い、2013年から学長室学事課が管理を担当。そして2015年から学院志研究室の専任職員が常駐してアーカイブズ作りをしています。学院志研究室は2013年に設置されたまだまだ新しい研究室です。これからも記念資料室の充実に努めてまいりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

年 表

1969 研究棟に「追手門学院記念資料室」が計画

担当事務員

第Ⅰ期（1号館4階の時期）
庶務課が管理
松崎まさ子

1983 大学創立20周年を記念して記念資料室を設置
1984 4号館新築に伴う1号館の改修により資料室の設備が整う

胸永等

杉浦義雄

辞職

1985
1986
1987
1988

1989 第2資料室が完成
書面で寄贈を呼びかけ

1990
1991
1992 大学文書保存基準の制定

1993
1994
1995
1996

1997
1998
1999



『藍風』第8号（1992年6月8日発行）より

2000 中等学校改革検討委員会室と相部屋

第Ⅱ期（学生会館2階の時期）
学長事務室が管理
庶務課が管理
沢田容子

2001 学生課事務室の移転に伴い、
資料室を学生会館2階へ移動

2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009



2016年1月14日撮影

2010 クラブコーチ室として使用されることになり、
4号館1階の文化財資料室と相部屋

第Ⅲ期（4号館1階の時期）
学事課が管理
学院志研究室が管理
窪田好子
柴野陽一
佐々木展子
田村綾
小倉久美子

2011 学友会へ寄贈を呼びかけ

2012
2013
2014
2015
2016

2016 大学文書保存基準の廃止
学院文書管理規程の制定

2017
2018 JIMUポータルGaroonで寄贈を呼びかけ



現在の様子

（文責・小倉久美子）

お知らせ

(2017年11月～2018年5月)

主な活動

2017年

- 11月4・5日 将軍山祭・ホームカミングデーにて、ポスター展およびデジタル変換した8mmフィルム映像を上映
- 11月 6日 第5回室員会議（会議室4B）
- 12月11日 学院志研究室News Letter第6号発行
- 12月18日 第6回室員会議（会議室4B）



2018年

- 3月 5日 近畿大学建学史料室が視察
- 3月 6日 第7回室員会議（会議室4A）
- 3月22日 茨木市制70周年事業写真集に古写真を提供
- 4月 6日 逐次刊行物の欠号リストを学内公開
寄贈依頼を開始（5月7日まで）
- 5月 8日 第1回室員会議（将軍山会館）

学外活動

2017年

- 11月13日 ミュージアムのための著作権セミナー（於、東京国立博物館黒田記念館）に出席（安田）
- 12月 5日 全国大学史資料協議会西日本部会2017年度第4回研究会（於、京都学・歴史館）に出席（小倉）

2018年

- 5月10日 福井県文書館の収蔵庫を見学（小倉）
- 5月11日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会第143回例会（於、福井県文書館）に出席（小倉）
- 5月22日 全国大学史資料協議会西日本部会2018年度第1回研究会（於、大阪女学院大学）に出席（横井・田上）
- 5月28日 自校史教育科目「早稲田学」公開講義（於、早稲田大学）に出席（田上）
- 5月29日 早稲田大学自校史教育科目担当教員と面会（田上）

2018年度 室員・調査員

室長	藤吉 圭二	（社会学部教授）
副室長	齊藤 一誠	（国際教養学部教授）
室員	佐藤 伸行	（経済学部教授）
	真銅 正宏	（国際教養学部教授）
	瀧端 真理子	（心理学部教授）
	豊島 真介	（国際教養学部教授）
調査員	住谷 研	（一貫連携教育部）
	武田 昌一	（近畿大学元教授）
	横井 貞弘	（元大手前中高教諭）
	吉田 浩幸	（元大学職員）

編集後記

ニュースレター第7号をお届けします。学院志研究室に寄せられた資料は「記念資料室」という名称の部屋（4号館1階）に収集されています。これは名称としては1969年までさかのぼります。

今号ではこの記念資料室の沿革をまとめています。この件に限らず学院の歴史等について何か情報をお持ちの場合は学院志研究室までご一報いただければ幸いです。（藤吉圭二）

追手門学院大学 一貫連携教育部 学院志研究室 News Letter 第7号

2018年6月11日発行

■お問い合わせ先■

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15



archives-g@otemon.ac.jp

寄贈に関して…記念資料室 ☎ 072-665-5062（内線4405）

バックナンバーはホームページでダウンロードしていただけます👉

年志に関して…学院志研究室 ☎ 072-665-5459（内線6617）





その壊れたモノは 被災記録物です

お願い

学院志研究室では、6月18日に大阪北部を震源として発生しました地震による学内の被災状況を記録し、後世へ教訓として伝えるために、壊れたモノを集めています。

倒れた書棚に押しつぶされたヘルメット、地震発生時刻で止まった時計、ヒビの入った液晶など、被害の悲惨さを伝える生々しい「物」がありましたら、処分せずひとまずお手許に保管をお願いいたします。

復旧作業をするうえで保管が困難であれば、学院志研究室にご相談ください。

みなさまのご協力をお願い申し上げます。

一貫連携教育部

学院志研究室

archives-g@otemon.ac.jp

内線 4405

記念資料室担当 小倉

内線 6617

学院志研究室担当 田上